

「笠利小学校の島唄・八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立笠利小学校

2 学年・人数

3～6年生（計41名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成30年4月～平成31年2月 総合的な学習の時間

（本校ホール・本校運動場・本校体育館・本校図書室等）

平成30年9月26日（水）運動会発表リハーサル（本校運動場）

平成31年3月14日（木）卒業式発表リハーサル（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

平成30年9月30日（日）雨天順延のため10月1日（月）

創立140周年記念秋季大運動会（本校運動場）

平成31年3月22日（金）卒業式（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称 島唄（しまうた）・八月踊り（はちがつおどり）

(2) 由来

奄美には冠婚葬祭などの催しには必ず唄がある。裏声を多用し三味線よりも小さな三線（さんしん）の伴奏により，その集落や生まれ育った所である「シマ」に伝わる島唄である。また，八月踊りは旧暦の八月の丙から，3日踊って（アラセツ）3日休み，そしてまた三日踊り（シバサシ）という集落の全員が唄と踊りに参加する伝統文化である。

(3) 構成等

運動会では，全校児童が輪になって八月踊りの「偽装（衣装）踊り」「三度まけまけ」「赤木名観音堂」を唄いながら踊る。伴奏の三線は地域の指導者などをお願いし，チヂン（太鼓）は子どもたち自身が叩く。最後は地域の方々も参加して「六調」を一緒に踊る。

卒業式では，別れの時に歌われる「行きゅんにゃ加那」を，三線の伴奏も子どもたちが担当して全校児童で六年生に向けて唄う。

5 保存会や地域との連携の具体

本校児童が20名近く参加している大笠利わらぶえ島唄クラブは「島唄が好きな子どもを育てる」ことを目的に30年以上活動している。そのクラブの講師に指導をお願いし，すべての子どもたちに島唄を好きになってもらうこともねらいの一つとして活動に取り組んでいる。

また、シマ（地域）によって節回しや歌詞に違いがあることなどを理解させることで、自分の生活地域での八月踊りなどの活動への意欲的な参加を促している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

運動会や卒業式に披露する島唄ばかりでなく、地域に伝わる様々な島唄の歌詞を子どもたちに分かりやすいように説明していただいたり、練習の中で歌ったりしている。シマグチの表現やシマに伝わる風土・文化・伝承などをいろいろな角度から子どもたちに伝え、子どもたち一人一人に、郷土（シマ）に対する誇りと自信を持たせるように工夫している。

7 取組の様子



8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 今、きよらの時間に、奄美の昔から伝わる島唄をしています。三線と唄に分かれて練習しています。ちなみに、私は唄の練習をしています。もうすぐ卒業式です。六年生との最後の式なので、それに向けてとてもいい島唄にしたいです。

（5年児童）

- 教室や廊下に島唄が響き渡ると卒業式が近づいてきたのだなと感じます。昼休みに三線の練習をする子どもたちの姿も音も素敵だと思います。（教員）

- 郷土の伝統を受け継ぎ、繋いでいく気持ちが子どもたちにも芽生えているようです。ありがたいです。（保護者）

